

# 在米邦人の高齢期の健康及び医療における課題と経験：質的研究

この研究は、米国に在住している日本人を対象にインタビューを行い、高齢期の健康や生活についてどのような課題を持っているかを調査し、必要な支援や支援するための仕組みを検討することです。

## 1.研究の目的・意義

本研究の目的は、米国に在住している日本人（在米邦人）が、高齢期を迎えるにあたって、健康や生活上でどのような課題を持っているかを調査することです。年を重ねることで、多かれ少なかれ身体機能や認知機能は低下しますので、高齢期の健康や生活は、多くの人が関心や心配をもつところでは、文化や医療制度が異なる国で生活する人にとっては、さらに多くの課題があることが予想されます。

そこで本研究では、在米邦人を対象にインタビュー調査を行い、高齢期にはどのような課題があるか、どのような準備が必要かを明らかにし、よりよい高齢期を迎えるために必要な支援策を検討します。

## 2.研究対象者

本研究の対象は、45～75歳未満で米国に住んでいる日本人と、75歳以上で米国に住んだ経験のある日本人です。対象者と調査内容を以下に示します。

### 1) 45歳～75歳未満で、米国に住んでいる日本人：

ボストンにお住いで、18歳以降に日本から米国に来られて10年以上お過ごしの方（現在の国籍は問いません）  
高齢期の健康と医療にどのような懸念や不安、課題を持っているかを調査します。

### 2) 75歳以上で、米国に住んだ経験がある日本人：

・18歳以降に日本から米国に来られ、現在もボストンにお住いの75歳の日本人  
・18歳以降に日本から米国に来られ、10年程度米国に在住し、その後帰国した75歳以上の日本人  
高齢期を迎え、健康や医療に関して考えたこと、実際に経験されたことを調査します。

### 3) 対象とならない方

以下の方は対象になりません。

- ・2世以降の日系人
- ・疾患などによる体調不良のため約2時間のインタビューが負担になる方
- ・認知症・うつ病・統合失調症等のためお話が不明瞭になる方

## 3.研究の方法と研究実施期間

調査者が対象者に、個別にインタビューします。インタビューは、対面または遠隔会議システム（Zoom）を利用したオンラインで行います。インタビューにかかる時間は、約2時間です。話したくないことは、お答えいただかなくて結構です。インタビューは、分析のため録音します。対面では音声のみ録音します。Zoomの場合は、録音・録画機能を使用しますが、録画した映像はインタビュー終了後に消去して、音声のみを保管します。

インタビュー終了後に、インタビュー調査に関することや、ご紹介いただける方がいるかどうかなど、Googleフォームを用いたアンケートを行います。

## 4.個人情報の保護、個人情報等の取扱い

インタビューで得られた音声データは、文字データに変換します。お名前は照合番号に置き換えて、個人が特定できない形で保管します。お名前と照合番号の対照表を作成し、鍵付きの棚で収納します。

研究期間中は、照合番号に連結したメールアドレス、対象者の背景に関する情報、インタビューの録音データおよび文字データは、インターネット上のセキュリティの高いストレージサービスで保管します。

## 5.情報の保管および廃棄の方法

本研究で得られたデータは、研究終了後はUSBに保存し、鍵付き戸棚にて保管します。論文発表後10年間は保存し、経過後は適切に廃棄します。

## 6.研究対象者の利益と不利益

本研究に参加いただいた方への直接の利益はありませんが、対象者のお話から得られた貴重な情報は、若い世代を含めた在米邦人が高齢期を穏やかに過ごすための施策などに役に立つと考えています。

また、参加いただくことで、大きなリスクは考えられませんが、インタビューに時間がかかることで、負担に感じる場合があります。

## 7.研究参加の自由と、撤回の自由について

研究への参加は自由で、参加しなくても不利益はありません。また、一度同意した場合でも、いつでも撤回できます。なお、インタビュー終了後に撤回を希望された場合は、データを削除いたします。ただし、撤回の申し出があった時点ですでに研究結果が公表されていた場合など、削除できない場合もあります。

## 8.経済的負担・謝礼について

### 1) 参加者の経済的負担

オンラインでの調査の場合は、Wi-Fi環境によっては通信費がかかりますが、通信費のお支払はいたしませんので、ご了承ください。

### 2) 研究参加への謝礼

本研究に参加して下さったことに対する金銭的な謝礼はありません。

## 9.当該研究によって生じた健康被害に対する補償の有無・内容

本研究では、参加者に精神的および身体的に重篤な健康被害が生じることは考えにくいですが、インタビューの際は細心の注意を払います。健康被害への補償などは準備しておりませんが、何か困ったことが生じた場合は個別に対応しますので、相談窓口までご相談ください。

## 10.試料・情報の二次利用、他研究機関に提供する可能性の有無

本研究で収集した情報は、匿名化した上で、当初の同意をいただいた時点では特定されなかった研究に用いる可能性があります。その際は、あらかじめ研究計画書を 作成し、倫理委員会の審査を受けます。

また、京都大学医学研究科健康情報学分野のホームページ上で、研究の目的を含む研究実施の情報を公開し、研究対象者が拒否できる機会を保障します。

## 11.研究実施について

本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。また、米国の共同研究者の所属機関であるHarvard Medical School/Massachusetts General HospitalのInstitutional Review Boardでも承認済みです（承認日：March 21, 2022）。

研究実施期間は、3年間（2021年9月24日～2024年09月23日）です。

## 12.研究計画の閲覧と研究結果の報告について

本研究の研究計画書をご覧になりたい場合は、相談窓口までお知らせください。

また、結果をお知りになりたい場合は、お預かりした連絡先にご報告しますので、お知らせください。

## 13.研究機関の名称・研究責任者及び研究分担者の氏名

本研究の実施機関、協力機関、ならびに情報管理責任者は以下の通りです。

### 1) 研究代表機関：

京都大学医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野

研究責任者 教授 中山 健夫

研究分担者 助教 當山 まゆみ 准教授 高橋 由光

### 2) 共同研究機関：

Harvard Medical School/Massachusetts General Hospital Instructor in Medicine 樋口 雅也

静岡社会健康医学大学院大学 准教授 森 寛子

医療法人尾形内科胃腸科医院 医師 富田 知英

Mongan Institute Project manager Naomi Gallopyn

### 3) 情報の管理について責任を有する者

京都大学医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報学分野 助教 當山まゆみ

## 14.研究資金および利益相反について

### 1) 研究資金の種類および提供者

本研究は、京都大学大学院健康情報学分野教室の運営費で実施します。

### 2) 資金提供者と研究者との関係

京都大学及び申請中の基金の提供者は、研究の企画、運営、解析、論文執筆の内容に関与しません。

### 3) 利益相反

利益相反について、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査され、問題がないことが確認されています。

## 15.相談の窓口

本研究についての問い合わせ窓口は、以下です。

### 1) 本研究の実施や内容について

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 當山 まゆみ

(Tel) 075-753-9477 (E-mail) toyama.mayumi.7f@kyoto-u.ac.jp (\*を@に替えてください)

### 2) 上記以外

京都大学医学研究科 総務企画課 研究推進掛

(Tel) 075-753-9301 (E-mail) kikaku06@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp (\*を@に替えてください)